

## 陳 述 書

2008年9月22日

原告 荒川 節子

私が今回、自衛隊国民監視差止訴訟の原告団の一人になぜ加わったかを申し上げます。

2007年6月に日本共産党の志位和夫委員長が自衛隊情報保全隊の内部文書を入手したことをマスコミ報道で知りました。私はかねがね自衛隊のイラク派遣は憲法違反と思っており、関心もあったのでその監視活動状況の内容を見せていただき、大変驚きました。監視報告の中に私が参加した集会があったのです。しかも、私はその集会で、政府への要請文を読みあげていました。戦争法反対宮城県連絡会が主催した「自衛隊のイラク派兵やめよ、憲法を守れ1・29 県民集会」です（甲A第1号証、P100）。その日の私の日記を綴っておりますので、ご覧下さい。

今、当時のことを振り返ると、息子の嫁が妊娠中でした。私達夫婦に初めての孫が生まれるのです。又、息子の会社が倒産して、10ヶ月ほどの職探しでようやく新しい仕事が見つかった時でもありました。私は定年退職後、自分の思いに忠実に行動しようと、私のような人間でも少しでもみんなの力にでもなればと、平和を守る運動などに参加してきました。そして、一生懸命今を生きている息子夫婦やこれから生まれ出ずる孫たちに平和な世の中を残したいという思いで、自衛隊派兵反対の集会に参加したのです。このような私は、自衛隊から監視されなければならないほど悪い人間なのでしょうか。深い憤りを覚えます。

私は、1940年名取郡千貫村（町村合併で現岩沼市）に生まれました。終戦は5歳になる前で、その年の7月、仙台空襲がありました。父親に肩ぐるまされて暗い夜空が真っ赤になっていたのは今でも記憶にあります。私の家は仙台から南に約30Kmほど離れた距離にありますが、3歳年上の姉はその空襲がすぐ隣村（愛島）での出来事のようにすごくはっきりと近くに見えた、と、今でも言っています。それほど大規模な空襲でした。父や大人達はこの空襲をどのような思いで見っていたのでしょうか。又、あの頃、姉と歩いていた時に、突然に飛行機の低空飛行を目にし、思わず草むらにガバッと伏せた記憶があります。当時は戦闘機がしょっちゅう飛んでいてこわごわ空を見上げていたよ

うな気もします。飛行場（矢ノ目）が近かったからでしょうか。（現、岩沼市）今でも、飛行機の音を聞くとあの時の恐くてうつ伏せになったことが頭をよぎります。また、子どもの遊び言葉に“トッコウ”があり、喧嘩の時にその言葉でなじりあっていました。特にお父さんが兵隊に行って戦死した子どもに向かって“トッコウ”と言っていたようです。子ども心にそれが兵隊さんのこととは思っていたのですが、大きくなって“特攻隊”がどのような悲惨なものか知った時、本当に大変な遊び言葉を言っていたのだと愕然となりました。

また、横須賀の叔父（父の弟）が兵隊にとられ、残された家族が叔父の実家である我が家に引っ越してきました。知らない土地で幼子を抱えて、おばはどんなにか心細く寂しく、悲しかったことか。それだけに、叔父が無事に帰って来た時のおばのあの顔、忘れることはできません。私は、戦火の中を逃げ惑ったり、すごくひもじい思いをしたことはありませんでしたが、このような子どもの頃の思い出があるので、今、起きているイラク戦争でイラクの人達はどんな思いでいるのだろう、早く平和になってほしいと、心から願っているのです。

いったい自衛隊情報保全隊とは何を保全するのですか。私は、保全隊とは自衛隊内部を乱さないよう保全するところかなと思っておりました。ところが、保全の持つ言葉とは全く関係の無い監視活動をしています。しかも、私達国民に対してです。私が参加した集会を例にとると、甲A第1号証の通り、集会名、主催者団体は勿論、参加者数、集会での発言内容等、又、P系とかの自衛隊の陰語まで使い私達をつぶさに監視しているのです。私は、いつもどこにいても監視されていると思うとすごく不安です。不気味です。恐ろしいです。見られているのではと思うと行動が萎縮しそうです。自衛隊は、私の純粋な思い、行動を踏みにじることを平気でやっています。平和的生存権の侵害です。私達が行動をやめれば、多くの国民の知る権利を奪うことにもなります。自衛隊が行なっているのは、私達への違憲行為だけでなく、多くの国民の知る権利や民主主義の侵害でもあります。監視活動は速やかにやめるべきです。

今、ここに朝日新聞の切り抜きがあります。歌手、沢田研二さんの紹介記事です。ジュリーこと沢田研二さんの、今年発売のアルバムの9番目の歌の題名は“我が窮状”です。憲法9条賛歌、憲法擁護の歌でご自身の作詞です。沢田さんは、「60歳になったら言いたいことをコソツと言うのもいいかな、言葉に出さないが9条を守りたいと願っている人達

に私も同じですよというサインを送りたい」と、言っています。私は何年か前にジュリーのコンサートに行きその歌の素晴らしさに感動しました。そのジュリーが舞台から「憲法9条を守ろう」と、バラード風にソフトに歌いかけるのです。なんて素敵なことでしょう。このような沢田さんも自衛隊の監視対象になるのでしょうか？監視報告書によると、反自衛隊活動とかイラク派兵反対とは無関係の集まりまで監視されています。自衛隊は国民の口を塞ぎ、耳を塞ぎ、目を塞ぎ、国民は何も知らされず、いつのまにか戦争への道を歩かされている、そのような日本にはしたくありません。

私は戦争はいやです。日本は戦後63年、戦争の傷跡はいまだに残っています。特に外地の戦地で現地人を刀で首を切り落としたという苦痛に満ちた元兵士の声をラジオで聞いたときのことは忘れられません。今までどんなにか苦しかったのか、家族にも誰にも言えなかったその苦しみを今言わなければ自分は死ねないと、重い口を開きはじめた元軍人の方の告白です。このような人が二度と出ない世の中にしたいものです。

自衛隊は内部文書を自分達が作ったことを何故認めないのか疑問です。自衛隊は憲法違反の国民監視活動を即時やめてください。

私は今、監視されている恐さはありますがこれにひるむことなく今まで通り憲法を守り平和を守り、人権を守るため活動を続けていきます。

以上、私がこの裁判に加わった理由と決意を述べさせていただきました。

裁判所は、この裁判で監視の実態を明らかにし、憲法にうたってある基本的人権、民主主義擁護のため正しい裁判をして下さるようお願い致します。



# ひと

還暦に憲法への思いを歌う

さわだ けんじ さん(60)  
沢田 研二



麗しの国 日本に生まれ 誇りも  
 感じているが／慰わしい時代に 遡  
 るのは賢明じゃない／英霊の涙に変  
 えて 授かった宝だ／この窮状 救  
 うために 声なき声よ集え  
 変わらぬ艶のある声。バラード風  
 の歌は自身の作詞だ。毎年ライブツ  
 アーを重ね、新作アルバムを出す。  
 還暦を迎えた今年のアルバムの9番  
 目はこの歌だ。題は「我が窮状」。  
 耳で聞けば、「このキューウジョウ  
 救うために」となる。  
 まぎれもない憲法9条賛歌だ。  
 なぜ今？  
 「60歳になったら、言いたいこと  
 をコソッと言うのもいいかな」と。  
 いま憲法は、改憲の動きの前でまぎ  
 りに『窮状』にあるでしょう。言葉に  
 出さないが9条を守りたいと願って

いる人たちに、私も同じ願いですよ  
 というサインを送りたい」  
 平和への関心は昔から強い。ある  
 時、バンド仲間と戦争の話になり、  
 一人が喧嘩にたとえて言った。「攻  
 められたら、守るだろう」  
 いや、一対一の喧嘩と、国と国の  
 戦争は違う。そう思い至ったときに  
 「少しプチッとほじけた」。戦争に  
 は、望まない人まで巻き込まれる。  
 これまでも「9条を守ろう」とい  
 う文化人らの意見広告やアピールに  
 時々、目立たないように賛同してき  
 た。大声で呼びかける柄じゃない、  
 と笑う。歌はソフトに終わる。  
 この窮状 救えるのは静かに通る  
 言葉／我が窮状 守りきりたい 許  
 し合い 信じよう

文・藤森研 写真・松沢竜一